

子どもの心の変化に気づき、
安心して学校生活を送れる体制づくりを目指し

教育長 田中 弘美

コロナ禍において、社会の変化や要請に合わせ実践してきた教育活動を検証し、子どもたちが次のステップを踏めるよう、具体的かつ実践的な教育環境の充実を図ります。また、引き続き「新しい学校生活様式」のもと、深く学び考えさせる授業方法により、子どもたち自らが学習し、経験、体験を通して、予測困難な時代に対応できる資質・能力を育むことができる環境整備を行っていきます。

そして、教育環境全般にわたり「つながり」「共感」を柱とした条件整備を行い、子どもの心の変化に気づき、安心して学校生活を送れる体制づくりに努めます。

令和4年度 流山市学校教育指導の指針
「学力・気力・体力」の流山の教育を推進するために
～学びに向かう力、共感する力を養い、自立する子どもを育む～

確かな学力

- 「ハイブリット化」で学びの質を向上(対面授業と遠隔・オンライン授業の組み合わせ)
- 読書活動により言葉を育む(学校図書館の活用・新聞の活用による表現力の育成)

豊かな心

- 心のケア、いじめ等の防止及び早期発見・早期対応・早期解決への支援体制
- 合理的配慮に基づく個別のニーズへの対応(個別支援計画等の作成)
- 相談体制の構築(「フレンド しんかわ」の開設)
- 教職員の指導力向上(各種研修内容の充実を図る)

健やかな体

- 運動に親しむ習慣や工夫した取組(体づくり運動)
- 感染防止策と教育活動の両立を図る(地域と連携した安全・防災教育)

つながりのある教育

- 特色ある教育活動の取組(SDGsの学びを取り入れた活動)
- 地域学校協働本部の活用及びコミュニティスクールへの移行
- 幼保小中のつながりのある教育活動

令和3年度はコロナ禍においても教育活動を止めることなく実践してきました。

令和4年度においては環境整備を重点に市教育委員会と関係機関、学校との連携を深め、特色ある教育活動の実践に取り組んでいきたいと考えます。